

沼津市児童生徒の栄養調査

寿円梅子

女子栄養大学

沼津市における児童生徒の血清脂質調査に併行して食事およびアンケート調査を行なったので報告する。

調査対象および期間：沼津市を便宜上、中心・農村・海浜地区の三地区に区分し、各地区で小学校、中学校1校ずつ（約60名ずつ）を抽出して食事調査を行なった。調査期間は昭和58年6月初旬の連続4日間である。

調査方法：調査用紙を配布し、記入例を参照しながら説明を行ない、日曜日を含む4日間の食事記録および生活時間について各自に記入してもらった。期間中、調査員がチェックまたは面接を行い、再度確認した。栄養価計算は、四訂日本食品標準成分表によった。

調査結果：食事と血清脂質の関連性について検討するにあたり、血液検査と食事記録の両方が有効であったもの、小学4年生167名、中学1年生207名を対象とする。肥満度20%以上のものが小学生男子で3%、女子で5%、中学生男子で6%、女子で3%含まれている。（表省略）

1) 栄養素等摂取状況について（図1.2省略）

栄養素等摂取状況を日本人の栄養所要量（昭和54年度改定）に対する充足率でみると、a) 中学生男子は、エネルギー、たん白質、脂肪、ビタミン（以下Vと略す）A、VB₁は3地区とも所要量の90%以上を満している。カルシウム（以下Caと略す）、鉄、VB₂、VCについては3地区とも不足している。地区別にみると、中心地区で脂肪充足率が最も高くなっている。

b) 中学生女子は、充足率は全体に低く、特にCa、鉄、VB₂、VCの不足が目立つ。中心地区では、脂肪充足率が他の2地区に比べて有意に高い。

c) 小学生男子は、充足率は全体に高いが、鉄の不足がみられる。脂肪の充足率は3地区とも120%以上である。d) 小学校女子は、充足率でみるとエネルギー、たんぱく質、脂肪、ビタミン類は90%以上であるが、Caと鉄の不足が目立つ。図1の左側は他地域の成績を並列した。なお比較のために栄養所要量に対する充足率で示したが、栄養所要量は5年毎に改定されており、また調査方法はそれぞれ異なっていることから一般に比較はできない。

2) 血清脂質との関連性について（図3省略）

血清総コレステロール値200mg/dl以上（以後H群と略す）と未満の2群に分けて検討する。なお120mg/dl未満のものは対象から除外した。

a) 小学校男子の栄養所要量に対する充足率は脂肪のみ両群間に有意差がみられる。栄養比率でも有意差がみられ、脂肪エネルギー比はH群に高く、糖質エネルギー比はH群が低い。b) 中学生男子は小学生男子と同様の傾向がみられるが、両群間の有意差はみられない。c) 女子は、小学生中学生とも両群間に差はみられない。

今後食品の質的問題、特にコレステロールおよび脂肪酸の摂り方、アンケートより運動量や家族歴の面、発育度などとの関連をみていく予定である。